

2月19日(土) セミナーリフレクション

講師：学び合う学び研究所フェロー 栗木 智美先生

コメンター：学び合う学び研究所シニアフェロー 副島 孝 先生

テーマ：「子どもの事実から学ぶ国語の授業を一緒に考えませんか？」

転勤して、人見知りを発動してしまい、子どもの目が怖くて寄り添うことができなくなっていました。ようやく慣れてきて、子どもたちの姿をよくよく見つめてみたら、自分自身の怠慢に気づきました。今日のセミナーで教師役をさせていただいて、グループに関わることをしていない自分を再発見して、今やるべきことが見えてきました。あと少しで一年が終わってしまっていますが、今日学んだことを来週から行動に移していきたいと思います。栗木先生のお話を聞いて、授業を見させていただくとやっぱりエネルギーがもらえます。来てよかったです。ありがとうございました！

栗木先生の日頃の指導の様子がよく分かり、とても学ぶことが多かったです。特に1年間の見通しを立て、計画的・戦略的に授業に臨まれていることは、本当に素晴らしいことで学ぶべきことと強く思いました。

また、グループでの関わり方をワークショップで学んだことは画期的でした。若い先生はもちろんのこと多くの先生方にも体験してほしいです。ありがとうございました。追伸：振り返りをスマホで入力する操作は疲れます！

今日は、ありがとうございました。1年間の教科指導の大切さを再発見できました。また生徒の変化が先生の意図した目標にむけて成長していく姿に感動しました。学び合いの忘れてはならないポイントも学ぶことができました。

副島先生による、栗木先生の実践の価値づけによって、頭の整理をする事ができたように思います。さらに石井英貴先生の文献から、新しい気づきを得る事もできました。充実した時間となり感謝しています。

愛！栗木先生の実践には、教材への愛と生徒達への愛に溢れていると思いました。そして栗木先生自身が教材との対話を、生徒たちとの対話を、楽しんでいる。だからこそ、その姿が生徒たちのモデルとなっている。そして、温かく支え合って高め合える学びが教室に生まれているのだと思いました。先生の学びの作法等、なくてはならないものだと感じました。

今回、初めてセミナーに参加させていただきました。ありがとうございました。はじめの自己紹介のところでガツンとやられました。話して終わりじゃないですね。まだまだ、自分はダメだなあと再認識させられました。もっともっと、人に興味関心を持たなくては！栗木先生の一年間の取り組みの中で、国語の授業を通して、生徒に何を伝えようとしているのかその一端を知ることができました。つい、栗木先生だからと考えてしまいそうになるのですが、あの授業開きの3時間があるからなのだと分かりました。

副島先生の話の中に出てきた、斉藤喜博先生の教師の仕事は儂い。儂いけれど、たがらこそ、4月の出会いには、ワクワク感がひとしおです。幸にして、私には、その4月がまだあります。まだ、今年度は終わってはいませんが、次年度に向けてのワクワク感が大きくなりました。自分は理科教師なので、理科を通して、どんなことを生徒に伝えたいのか、理科という学問を介して、生徒をどう繋ぎたいのか、考えていこうと思います。今日はありがとうございました。

額田王を可愛いと考える、わかさんが、気になりました。友達が、片思いの相手の行動に、一喜一憂している姿を見て、可愛いなあと思ったことがあります。御簾の中にいるのが、自分だと考えていると、切なさを理解できるけれども、御簾の外から見ていると、可愛いんだろうなあ、思いました。また、私の息子は、13番目の孫で、祖母に1年に2度会うだけでした。可愛がってもらった経験はないとすると、あの祖母の詩は理解できないだろうなあ、と思います。さまざまな条件のある生徒を前にして、正解はこれだと押し付ける指導は、虚しいだけです。自分の中の思いをどれだけ押さえて授業を行うことができるかが、学び合う学びの指導者になれるかどうかの分かれ道だと思います。3時間半、ずっと教材や生徒のことを考えることのできた貴重な時間でした。ありがとうございました。

本日は、ありがとうございました。栗木先生とは長年の付き合いですが、今回のセミナーに参加して先生の心地よい変化を感じました。生徒とかかわる栗木先生の姿に関係性の変化を感じました。この変化とは、何か。その変化は、どこから生まれるのか考えながらセミナーに参加していました。

まず、変化は、テキストに向かう生徒へのまなざしでしょうか。以前は、もっと引っ張っていたように感じましたが、今は、伴走者になっています。テキストに対する向き合い方を（協同探求者として、）生徒に委ねているように感じました。まだ、明確になってはいません。

そして、この変化がどこから生まれてくるのかについてです。ここには、二点書きます。一つは、授業のデザインが、1単元のみで考えられていないことです。単元と単元をつなぐ構想から生まれている。この傾向が強くなったと感じます。他の先生においては、単元によるデザインを考えることすら大変だと感じているように思いますが、栗木先生は、単元でつきたい力をこえて、年間をとおして、こんな生徒を育てたいという思いが、より強く感じられるようになりました。

二つ目に、年間の大きなフレームで育成ビジョンを描いているにもかかわらず、学期のはじまり、1時間のはじまりが実に丁寧なことです。それも、余裕をもって行われていることを知りました。20年以上前に拝見した授業のすごみを思い出しながら、最近の栗木先生の授業の、なんと自然体なことか。鷲田清一の文章に向かう生徒の様子をみて、あのような生徒を生み出す教室の秘密を、いっそう詳らかにしたいとの欲求が抑えきれません。ぜひ、次の機会をつくり学びたいと感じました。

授業開きに3時限もかけることは驚きでしたが、十分価値があるし、必要なことだと思いました。1時限の中でグループ活動と個人の活動を繰り返し、個の考え方、感じ方を高めていくのも、自分にはない発想でした。高校の数学なのでグループ活動はほとんど行ってきませんでしたが、自分がやると、1回のグループ活動に時間をとってしまい、1時限に1回ぐらいしかいられないと思います。ひとつの感じ方、他人の感じ方にとらわれないよう、朗読より音読をさせることは驚きでした。

多数参加いただき、ありがとうございました。生徒たちの一年の学びということで焦点化できずに浅くなってしまい、申し訳ございません。行き当たりばつりのその日暮らしのため、なかなかこのようにまとめることがありませんでしたので、機会をいただいたセミナー事務局、許可いただいた篠岡中学校、貴重なコメントを頂戴しました副島先生初め参加者の皆様に感謝いたします。一回まとめておくとまた大学等でも使えるかなと秘かに思っております。

参加くださった方のコメントに、「愛」とありました。国語科教員としての知識も技量もない私ですが、生徒への、教材への、学校への愛しみだけは忘れずにいたいと、自身に言い聞かせました。

恩師、副島先生にコメントいただき、学びが深まりました。授業開き3時間は、私にとっては普通のことですが、価値づけてくださると3時間かけてよかったと思えます。でもその3時間で終わりではないので、一年間かけて行きつ戻りつ作法を浸透させていきます。文学の読みに関しては、石井先生・佐藤先生の言葉で説明してくださり、参加者の皆様も理解が深まってと思います。石井英真先生のインクルーシブと個別最適化は、初めて知る内容でしたが、協同的な学びと個別に最適化された学びは相反するものではないと認識いたしました。

「誰かの代わりに」の授業で、依存症と依存に関して副島先生が違和感を持たれた点ですが、今思うと、生徒たちもその二つの意味が混在していたように思われます。これは、私の教材研究不足からそうなったことは否めません。教材研究の怖さはこういうところにもあると痛感いたしました。ありがとうございました。コメントをいただけると、報告者も学びが深まり、労が報われます。

今回、拝見した授業ビデオは、1年間を通した教室の変化です。まず、3本の授業動画をセミナーで公開していただけたことに敬服しました。3学期間の変化は、場合によっては進展が見られないこともあり、逆に後退することすらありますので、非常に厳しい取り組みであったと感じました。ところが、今回の教室は、こちらの予測をはるかに超え、1学期より2学期、2学期より3学期と着実に進化（深化）していることが伝わってきました。これは、単にカリキュラムどおり授業を進めていくのではなく、その時点で足りていないものを指導者がしっかりと見極め、それに対する明確な手立てをもって次の段階に進んでいるからこそ、この教室の確かな深化があると感じました。

コメンテーターの副島先生のお話に出てきました斎藤喜博先生の著書に「自分の子どもは教師にはさせたくない。それは、教師の仕事が画家や小説家や将棋指しの仕事と同じに、絶えざる創造を積み上げない限り、決してできるものではないということをよく知っているからだ。」と書いています。今回学んだ、栗木先生の授業は、まさに「絶えざる創造の積み上げに」根ざすものにほかならと思いました。